

防災対策に資する

南海トラフ地震

調査研究プロジェクト

南海トラフではマグニチュード 8～9 クラスの地震が起こる確率が高まっています。さらに異常な現象が観測される可能性も示されています。このプロジェクトは「地殻活動情報創成研究」・「地震防災情報創成研究」・「創成情報発信研究」の3つの研究課題を立ち上げ、南海トラフ地震の活動を把握・予測し、社会を守る仕組みを作り、地域への情報発信による減災への貢献を目指します。



プロジェクト代表 兼 課題担当
海洋研究開発機構
小平秀一

サブ課題1

地殻活動情報 創成研究

海陸統合モデル・データを用い
地震・地殻活動を即時的に
把握するシステムを構築する

地震本部
地震関連現業官庁



課題担当
防災科学技術研究所
藤原広行

サブ課題2

地震防災情報 創成研究

南海トラフ地震・津波に対する
防災情報基盤を創成し
命と社会を守る総合研究を推進する

地域経済団体
防災推進のネットワーク

サブ課題3

創成情報発信研究

研究成果情報発信から
防災ソリューションへ
情報の発信の在り方を検証する



課題担当
防災科学技術研究所
高橋成実

南海トラフ沿い地方自治体
インフラ企業

実施機関：海洋研究開発機構（代表機関）、防災科学技術研究所、東北大学、東京大学地震研究所
産業技術総合研究所、京都大学、名古屋大学、東京大学、香川大学、徳島大学

★詳しくはプロジェクトホームページへ

<https://www.jamstec.go.jp/bosai-nankai/>

